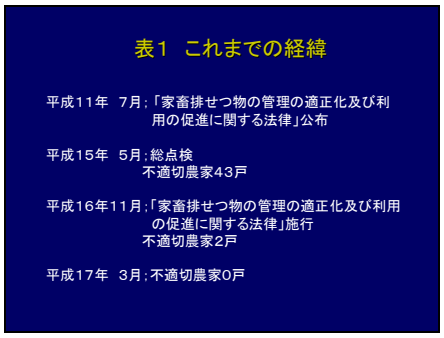
畜産環境調査結果について

西部家畜保健衛生所　西讃支所
○梶野昌伯・澤野一浩・真鍋圭哲

はじめに

「家畜排せつ物に管理の適正化及び利用の促進に関する法律」（以下、排せつ物法）が平成１６年１１月に施行されるまで、地域畜産環境保全協議会は不適切な管理をしている農家への改善指導を行ってきた。その結果、平成１５年５月の総点検には不適切農家４３戸、平成１６年１１月の施行時には不適切農家２戸にまで減少した。

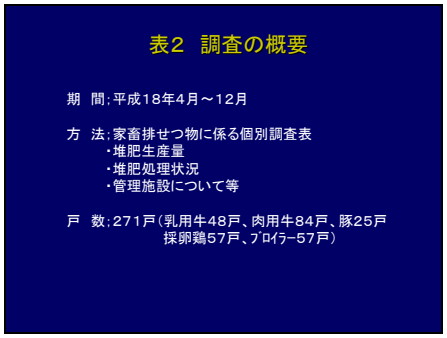
その後の改善指導の結果、平成１７年３月には改善され、不適切農家はなくなった。それから、１年が経過し各農家の堆肥処理状況を再確認すべく、調査を実施した。



調査の概要

調査期間は平成１８年４月から１２月とし、方法は家畜排せつ物に係る個別調査票を用いて、堆肥生産量・堆肥処理状況・管理施設の状況などの項目について調査を実施した。

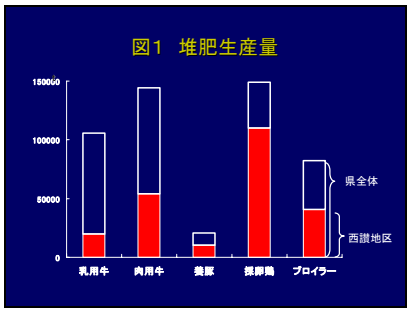
調査農家数は、乳用牛４８戸、肉用牛８４戸、豚２５戸、採卵鶏５７戸、ブロイラー５７戸の計２７１戸を調査した。



堆肥生産量

県全体で発生する堆肥の西讃地区が占める割合である。

乳用牛では、県全体のうち２０％が西讃地区から生産されていた。肉用牛では４０％が生産。豚とブロイラーでは５０％が生産。採卵鶏では７４％が生産していた。



堆肥処理状況

乳用牛

自己圃場散布が４０％、耕種圃場散布３２％、堆肥センター処理２　　５％でだった。管内は自給飼料作付け等をしている酪農家が多いので、自己圃場散布をしている割合が高かった。

肉用牛

自己圃場散布１７％、耕種圃場散布５６％、堆肥センター流通２５％だった。稲ワラ交換が盛んなため、耕種圃場散布が過半数となった。また、管内に堆肥センターもあるので利用割合が高かった。

養豚

自己圃場散布４０％、耕種圃場６０％であった。

農家自身で処理し、地区内で堆肥利用をしていた。

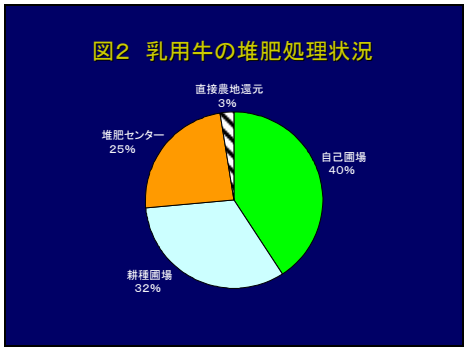
採卵鶏

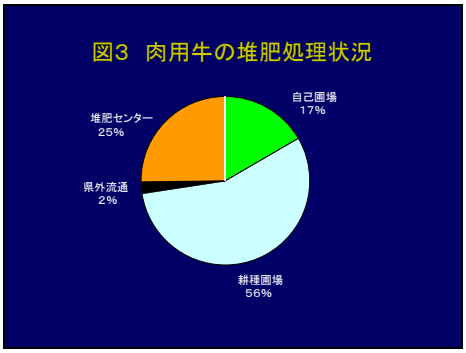
耕種圃場散布３０％、製品化し県外流通２６％、焼却３０％であった。

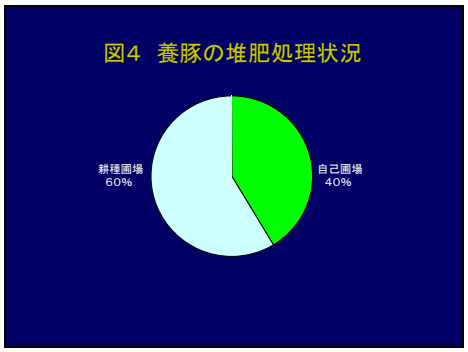
ほとんどの採卵農家では、自己農地を所有せず、経営外で処理していた。製品化した堆肥の県内流通はほどんとなく、県外への出荷だった。焼却への依存度も高かった。

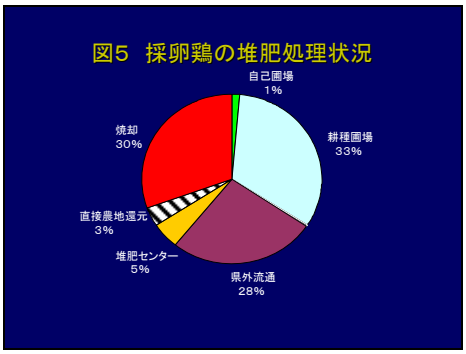
ブロイラー

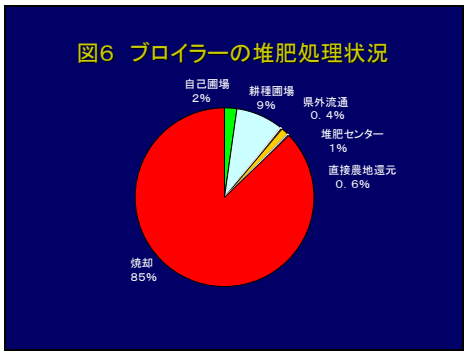
焼却８５％と焼却への依存度が高かった。











施設保有・整備希望

施設保有は８８．８％が整備していた。畜種別では肉用牛、採卵鶏、ブロイラーで施設保有が低かった。施設保有していない１１％の農家は堆肥センターや焼却施設利用や、直接農地還元も行っていた。

施設整備希望は３．３％だった。整備希望は飼育規模に応じた施設を持っていない規模拡大した農家や良質堆肥を作りたい農家から追加整備希望があった。

保有と整備希望（追加整備希望の農家も含む）を単純にたしても９２％であり、残り８％の農家は廃業を視野に入れていると推測された。

表3 施設保有･整備希望

	施設保有(%)	施設整備希望(%)
乳用牛	95.8	0
肉用牛	83.3	2.3
養 豚	100	5.0
採卵鶏	88.8	5.8
ﾌﾞﾛｲﾗｰ	86.0	2.1
全 体	88.8	3.3

散布車保有、保有希望

散布車保有は３４．５％であった。管内は野菜産地のため、散布車を保有し散布サービスを実施し堆肥処理を行っている割合が高かった。

牛では、ＪＡが共同利用散布車を保有しての表のとおりの数値であった。

養豚では、農家自身で自己・耕種農地で処理しているため保有率が高かった。

養鶏では、農家自身が自己農地をもっていないため、散布車を保有し処理しやすくしていた。

散布車を保有していない農家はショベルで散布したり、圃場へ少しずつ堆肥を置き、耕起していたりした。また、耕種農家が散布代が高いので、圃場内に少しずつ堆肥を置いておけば、耕種農家がその後をする地区もあり、堆肥処理に散布が必須条件ではなかった。

保有希望は４．５％だった。散布車が高額なため購入を控えている農家が多かった。追加希望もあり、大型散布車を持っている人は小型、小型散布車を持っているので大型を希望する農家もいました。

表4 散布車保有･保有希望

	散布車保有(%)	散布車保有希望(%)
乳用牛	31.0	0
肉用牛	29.1	6.8
養 豚	41.7	0
採卵鶏	46.5	8.8
ﾌﾞﾛｲﾗｰ	29.4	2.1
全体	34.5	4.5

堆肥品質向上、新規供給可能

堆肥品質向上希望は７．２％だった。希望は堆肥販売を主としている大規模農家からだった。中小規模農家からは、収入にならない堆肥生産について、新たなコスト負担や堆肥製造に時間がかかると言った理由から希望はほとんどなかった。

新規堆肥供給可能は３３．３％だった。大規模農家は可能が多かったが、中小農家からは少なかった。中小規模農家では、既に堆肥に行き先が決まっており新規分の堆肥がない、販売できる堆肥まで手間をかけなくても自己処理できると言った理由だった。

特に中小規模農家は堆肥生産・処理をきちんと行いたいが、コスト・手間を考えると難しいと言う意見だった。

表5　堆肥品質向上希望･新規供給可能

	堆肥品質向上希望(%)	新規堆肥供給可能(%)
乳用牛	2. 1	14. 6
肉用牛	4. 5	29. 5
養 豚	5. 0	30. 0
採卵鶏	15. 8	54. 4
ﾌﾞﾛｲﾗｰ	2. 1	12. 8
全体	7. 2	33. 3

西讃地区の特徴

施設保有をしていない農家では、堆肥センター・焼却施設に大きく依存していた。大規模農家では、堆肥生産に意欲的なため、施設や散布車の追加整備希望があった。堆肥利用では、散布を行い地区内利用をしているが、散布代を敬遠しバラ販売が多い地区もあった。

中小規模農家について

堆肥生産にコスト・時間をかけれないため品質向上を希望しない。堆肥生産に消極的で自己圃場処理が多かった。堆肥の供給先が既に決まっているため、新規供給ができない。

大規模採卵鶏農家はペレット化堆肥など積極的に商品化を行い、県外出荷を行っていた。

表6　西讃地区の特徴

- 施設保有していない農家は堆肥センター、焼却施設に依存。
- 大規模農家から施設整備追加希望があり。
- 堆肥散布を行い、地区内利用。
- 受入側が散布代を敬遠し、バラ販売。

（中小農家）

- 堆肥生産にコスト･時間をかけられないため品質向上希望をしない。
- 堆肥生産に消極的で、自己圃場処理。
- 堆肥の供給先が既に決まっており、新規供給ができない

- 大規模採卵鶏は、ペレット化など商品化し県外出荷。

問題及び考察

堆肥処理は自己圃場が多く、圃場の窒素過多が懸念される。鶏の堆肥処理は焼却が多く、焼却に係る多大なコスト負担となってきている。中小規模農家は堆肥生産・処理に消極的であった。

今後、中小規模農家の堆肥利用・流通を支援するため、堆肥の広域利用を推進するシステムの構築が必要である。調査結果は西部地域畜産経営環境保全推進協議会で活用し、排せつ物法遵守による地域畜産環境保全や資源循環型畜産経営に推進を図っていきたい。

表7　問題および考察

- 堆肥処理は自己圃場が多く、圃場の窒素過多が懸念
- 鶏の堆肥処理は焼却が多く、多大なコスト負担
- 中小農家は堆肥生産・処理が消極的

中小農家の堆肥利用・流通を支援するため、堆肥の広域利用を推進するシステムの構築が必要。